



新年のご挨拶



公民館は楽しい憩いの広場
せつかくの人生
笑顔で楽しんだ者勝ち

日田市光岡公民館運営委員会
会長 高瀬 博 (新治町自治会長)



新年おめでとうございます。
校区の皆様方にはお健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
また、日頃より光岡公民館活動に對しまして、思いやりと心あたったかいご協力を賜り熱くお礼を申し上げます。
最初に先ず、昨年の十一月十八日に発生しました「佐賀関の大火災」に遭われました方々に心からの哀悼とお見舞いを申し上げます。
さて、昨年の十月に開催しました「光岡ふれあいまつり」におきましては、

校区内外からたくさんのご来場をいただき、大盛況のおまつりとなりました。ここに改めまして実行委員会、スタッフ、すべての関係者、ご来場をいただきました皆様方にこころより厚くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

さて、日田市の地域活動を見てみますと、昨年紹介しました「有償ボランティアお困りごと応援隊」も徐々に広まりつつあり、加えて今注目されている高年齢者、免許返納者への「通院や買い物等の移動支援」(利用者はガソリン代など実費負担)の住民の支えあいの取り組みについても実施する地域も出て来ており、身近な問題として、今後の検討課題の一つになると思っております。

私たちの公民館では、いろいろな活動が難しい時代を迎えている中で歳を反対おきにとっておられる(笑)「日田、光岡のお宝」井上やチ子先生の「着物の着付け、洋裁教室」をはじめ、子育てサロンの幼児から、すずめの学校に通う高齢者「各種自主学習教室」で講座や学習と交流を通して活動を行っています。確かに、時代は高齢化社会となり、暦年齢にあらがうことはできませんが、「気持ち年齢」は自分で変えられます。

光岡公民館に集う多くの方々はおっしゃいます「せつかくの人生笑顔で楽しんだ者勝ち」と・・・。
私見ですが、楽しまれる皆様方は実年

齢より十歳、いやそれ以上若いのです。(笑)楽しんで若くなった分は儲けですよね。儲けた分のお釣りは楽しい笑顔を周りの方々にお裾分けです。(笑)

公民館は楽しい憩いの広場になっております。毎日明るく元気な熊谷館長と名コンビの塚田主事が笑顔満点で皆様方をお待ちしていますよ、どうかお気軽にお立ち寄りくださいませ。

今年も光岡公民館は皆様方と共に「元気いっぱい」活動を推進していきたいと思っています。新しい午年(うまどし)が皆様方にとりまして「今日まで生きていて本当に良かった」と思える年になります様ご祈念申し上げます、新年のご挨拶にかえさせていただきます。

令和8年日田市20歳のつどい

日時 令和8年1月11日(日)

受付 10時00分より

式典 11時00分より

場所 パトリア日田 大ホール

対象者 平成17年4月2日

～平成18年4月1日に

生まれた方



「正月飾り置物」で玄関を華やかに～てるおか女性セミナー R7. 12. 12



てるおか女性セミナー第6講「正月飾りの置物作り」を開催し受講生9名が参加しました。はじめに自分の好きな松や梅、造花、水引きなどを選び、講師の中垣由美子さんの指導を受けながら器にアレンジして、自分だけのオリジナル作品を完成させました。

出来上がったお互いの作品を見せ合いながら「こういうアレンジも素敵ね」と会員同士で話しが弾んでいました。皆さんニコニコと笑顔で作品を大切に持って帰りました。

「ジングルベル」でクリスマスコンサート～光岡老人大学 R7.12.11

老人大学第5講は、日田で活躍するアマチュアバンド「シティーライツ」による「クリスマスコンサート」を光岡公民館で開催、受講生47名が参加しました。ギター、ベース、フラットマンドリンの演奏でフォークソングや演歌、「ジングルベル」など17曲を歌い、そのうち3曲を参加者も合唱しました。また弦が36本ある「オートハープ」という楽器の演奏も披露していただきました。



ふるさと再発見ウォーク「ひたあるき」が行われました

R7.12.13

本年度初のイベントとなる日田市民館運営事業団主催のウォーキングイベントが12月13日三隈川周辺で行われました。

これは隈町の歴史のみどころをウォーキングで巡りながら日田の魅力をあらためて感じてもらうためのものです。

三隈川公園をスタートし亀山公園、隈町の祇園山鉾会館などをめぐり三隈大橋を渡って三隈川を一周する3.2キロコースで、日田市内20公民館から申し込んだ189名が参加しました。家族連れやご夫婦、仲良しグループなどいろんな世代の方が風景や名所旧跡を楽しみながら自分のペースで歩きました。元気な方は中の島を回るプラス2.2キロコースにも挑戦しました。最後の抽選会では日田の特産品などをゲットしていました。



快晴の下、笑顔で親睦の光岡グラウンドゴルフ大会 R7.12.7



光岡公民館主催「第14回光岡グラウンドゴルフ大会」が光岡小学校運動場で開催され、各町内より団体戦17チーム、個人戦101名が参加しました。

日頃からグラウンドゴルフをしている達人から全くの初心者までが混ざってコースを回り、競技を通して親睦を深めました。

表彰式では団体戦上位3チーム、個人戦上位5名ほか、飛び賞、ブービー賞の表彰がありました。

光岡公民館運営委員会の高瀬博会長より特別賞として最高齢者賞などもあり、最高齢者のお元氣な姿に皆さんも元氣をもらっていました。



第14回 光岡グラウンドゴルフ大会 成績

【団体戦】

- 1位 玉川町Aチーム 211打(1打が2つ)
- 2位 新治町Aチーム 211打(1打が1つ)
- 3位 玉川町Bチーム 214打

【公民館運営委員長特別賞】

- 最高齢者賞 男性 星熊主一郎さん(北友田2丁目)
- 女性 北口文子さん(北友田1丁目)

【個人戦】

- 1位 壁村次信さん(北友田1丁目) 32打
- 2位 梶原昭子さん(玉川町) 35打※年齢上
- 3位 森山和子さん(南友田町) 35打
- 4位 和田良徳さん(新治町) 37打
- 5位 梶原里美さん(新治町) 38打

光岡地区 自治会人口と世帯数 (令和7年11月30日現在)

自治会名	人口	世帯数
日ノ出町	738人	376世帯
清岸寺町	1,251人	495世帯
吹上町	812人	374世帯
玉川町	687人	345世帯
玉川3丁目	1,223人	566世帯
新治町	921人	402世帯
南友田町	1,505人	649世帯
北友田1丁目	726人	333世帯
北友田2丁目	277人	118世帯
北友田3丁目	199人	94世帯

年末大掃除でピッカピカ！ R7.12.14

毎年恒例の光岡公民館年末大掃除を自主学習教室生47名で行いました。窓ガラスや床の水拭き、障子の貼り換え、外回りのクモの巣取りなど普段行き届

かない場所を念入りに掃除しました。2時間ほどで館内中がピッカピカになり、今年も気持ちよく公民館を利用できそうです。



光岡公民館 1月の予定

1月 9日(金) 女性セミナー 「気づき」から学ぶ

こと～女性の人権 講師 赤峯友子さん

1月14日(水) すずめの学校

1月17日(土) 光岡ヒカリっ子塾(視察研修)

1月23日(金) 男の居場所「門松」撤去作業

1月29日(木) 1月30日(金) 男の厨房

※1月の子育てサロンはお休みです。

●次回子育てサロン

日時 2月10日(火) 10:00～

内容 みそらこども園さんによるパネルシアター、
おひなさま作り、絵本読み聞かせ

※1月の老人大学はお休みです。

●次回老人大学は2月12日(木) 視察研修
(研修地 福岡市博物館)

光岡地区の文化財のご紹介

がくりんじもくぞうみんきそしゅんざぞう
県有文 岳林寺木造明極楚俊座像

(日田市立郷土資料館)

岳林寺開山明極禅師の像。松材寄木造り、漆塗り、玉眼、挿し首。像高約1m。裳裾を垂れてゆったりと椅子に座す。海外から渡来して試練を超えた名僧の不屈の気魄と、暖かさのこもった写実的な容相を現し、衣・袈裟は簡略ではあるが形式に堕ちない彫りを見せる。禅師没後間もないころの、南北朝頂相の優作である。(H24年3月 日田市教育委員会発行 日田市の歴史と文化財より)

『光岡っ子お助け隊』を募集します

光岡小学校では教科学習のほか、地域を知る学習や体験学習など幅広い学習活動を行っています。

子どもの体験不足や地域との係わりの薄さが指摘されており、このような体験学習を地域の方が支え、光岡校区のたくさんの方々に子どもの体験学習を補っていただくのが「光岡っ子お助け隊」です。

光岡っ子お助け隊は、子どもたちが成長するためのお手伝いをする地域の「人材バンク」的な役割を持っています。

特別な技能は必要なく、体験活動等を行う子どもたちの見守りでも構いません。

今後も地域の方々の力を必要としていますので、光岡お助け隊に関心のある方、自分の経験やスキルを活かしたい方は、光岡公民館までご連絡ください。

お問合せ先 光岡公民館 電話 23-8984

多くの方の参加をお待ちしています。



5月 野菜の苗植え指導



5月 吹上観音堂のガイド



10月・11月 ミシンかけ指導

1月7日は「春の七草」です。(セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ)

古来中国では正月7日目の日を「人日(じんじつの日)」とし、その日は犯罪者に対する刑罰は行わないようにしていました。また、この日には一年の無病息災を願って、また正月の祝膳や祝酒で弱った胃を休めるため7種類の野菜(七草)を入れた羹(あつもの※熱い汁物)を食する習慣がありました。日本では貴族の間で行われていた、新春に雪から芽吹く「若菜摘み」の風習とあわせり「春の七草」となり江戸時代より庶民に定着しました。